

home

Shizuoka Saiseikai Communication Paper



July, 2016

Vol.22

Contents

- 特集
01 新館「東館」が始動しました!
- 特別対談(院長×看護部長×事務部長)
06 新館「東館」オープンで
静岡済生会総合病院はどう変わる?
- others
・平成28年6月1日より一部のお薬が
一般名処方に変更となりました



New wing Open!

新館「東館」が、始動しました!

平成26年4月より進めておりました建築工事が一部完成し、この度、新館「東館」がOPENいたしました。別棟等の工事は引き続き行われますが、これからも「より安全・より安心・より高機能」な病院づくりをめざしていきます。





EAST
1F

救命救急センター (救急外来)

西館にあった救急外来が新館の1階に。患者さんのプライバシーに配慮し、3つの診察室を独立させて防音性を高めました。上階の手術室やICUとは専用のエレベーターで直結。大型医療機器をつけた患者さんもベッドごと搬送できます。



EAST
1F

放射線検査室





EAST
6F

救命救急センター (ICU)

明るく眺めの良い最上階にICU(集中治療室)を配置。広い室内の中央に、モニターを備えたナースステーションを配し、どの患者さんも見守りやすくしました。



EAST
5F

検体検査センター

1階で採血した検査用血液を、エアシューターで即座に検体検査に回せます。



EAST
3F

手術センター

1階で受け入れた患者さんを迅速に手術室へ。南館とも連絡通路で結ばれ、入院患者さんの移動もスムーズ。窓のある明るい手術センターはスタッフの意欲向上にもつながります。



EAST
2F

総合検査センター

内視鏡検査や超音波検査等の検査が1ヵ所のできるフロア。県産材の腰壁が随所に張りめぐらされ、検査の緊張を和らげる落ち着いた雰囲気。



栄養管理科

安心・安全を第一に考え、栄養の面から患者さんをサポートしています。管理栄養士が入院患者さんのもとへ直接赴き、病状や体調に合わせた食事が提供できるよう、栄養相談にのることもあります。



アイソトープ検査室

新館「東館」オープンで 静岡済生会総合病院はどう変わる？

この5月、待望の新館「東館」がいよいよ本格的に稼働を始めました。施設拡充に伴い、今後の病院運営はどう進化していくのでしょうか。当院を代表して院長・看護部長・事務部長の3人に聞きました。

暖かい医療を、 これからも。

新東館は1階の救命救急センターから3階の手術センター、6階のICU(集中治療室)までをタテに結びました。建物中央に患者さん専用エレベーターを設け、医療機器のついたベッドのまま移動できるようになっています。患者さんが清掃中のスタッフなどと同じ動線にならないよう新しいルールも設けるなど、プライバシーにも配

慮しました。手術センターに設けた窓や県産材を使った木の腰壁など、患者さんはもちろん働く職員にも良い環境になつたように思います。館内の配置が変わり、迷ってしまう患者さんも時折見かけますが、そんな時はどの職員も進んで声をかけています。そうした暖かなホスピタリティを当院の伝統として、今後も受け継いでいきたいと思

います。



看護部長
牛之濱 千穂子

施設も人材も 大幅に充実しました。

以前の救命救急センターは私が研修医で赴任した当時の建物でした。今回



の新館完成によって、ようやく現代のスタンダードを超えるレベルの施設になったように思います。スタッフも働く環境

が充実したせいか、皆どこか明るくなっている気がします。この春は施設だけでなく、人材面も飛躍的に強化できました。救命救急センター長に着任した小柴真一医師は、当院での研修医時代を経て研鑽を積んできた逸材で、救急車の受け入れにも非常に前向きに取り組んでくれています。また、呼吸器内科が再開したことで呼吸器系の救急医療体制も整いました。我々はこれからも「あたたかい思いやり」を発揮し、「済生会を受診して良かった」と言っていただける医療を進めていきます。

病院長
石山 純三

合言葉は 「安心・安全・高機能」。

今回の建設計画は、救命救急医療の充実を重要課題として、平成23年から県の地域医療再生基金の適用を受けて進めてきたものです。当院の救命救急センターは県内で最も早くから活動してきましたが、時代の流れに合った高機能化が期待されていました。そこで計画にあたっては「安心・安全・高機能」を合言葉に、医療の安全性や災害への備えなどいろいろな角度から検討しながら、患者さんが居心地良く過ごせる環境づくりに取り組んでいます。この後も西館の耐震補強や連絡通路の整備などを行い、平成30年秋に全工事が完了する予定です。皆様には長期間にわたってご不便をおかけして

いますが、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い致します。



事務部長
杉原 孝幸



平成28年6月1日より 一部のお薬が一般名処方に変更となりました

一般名処方とは？

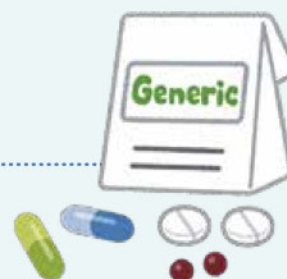
これまでは、製薬会社が決めた薬の名前(商品名・銘柄名)で処方を行っていました。

これに対し、薬の有効成分の名前(一般名・成分名)で処方を行うことを一般名処方といいます。

例) **これまで** 商品名・銘柄名「ガスター」



これから 一般名・成分名「ファモチジン」



処方箋の薬の表記はこのようになります

例) **これまで** 商品名・銘柄名処方「ガスター錠10mg」



これから 一般名処方「**【般】**ファモチジン錠10mg」 ※薬の前に【般】が表記されます。

今まで使用していた薬と変わりません

- 一般名処方では、後発品(ジェネリック医薬品)も含んだいくつかの薬の中から、自由に薬を選ぶことができます。ただし、薬局は全ての薬を置いておくことは出来ませんので、かかりつけの薬局を決めておくとう良いでしょう。
- 今まで使用していた薬は一般名処方になっても、同じものを選ぶことができますので心配ありません。
- 一般名処方によって、ジェネリック医薬品の普及率を上げ、患者さんとしても薬代を安くすることができるため、厚生労働省がすすめています。

全ての薬ではなく、一部の薬が一般名処方になります。

わからないことがありましたら、当院の薬局または、かかりつけの薬局でご相談ください。

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します



社会福祉法人 静岡済生会 静岡済生会
静岡済生会総合病院

〒422-8527 静岡県静岡市駿河区小鹿一丁目1番1号
TEL.054-285-6171 FAX.054-285-5179
<http://www.siz.saiseikai.or.jp/hosp>

済生会とは？

明治44年、明治天皇より済生勅語とともに下賜されたお手元金150万円を基金として、当時の総理大臣桂太郎が「恩賜財団済生会」を創立。以来、済生会では創立の精神を引き継ぎ、保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んでいます。